

## 食品安全委員会のリスク評価の迅速化や 専門性の強化について（論点メモ）

放射性物質の食品からの検出や死亡者を伴う食中毒の発生など、食品に対する国民の信頼を揺るがす新たな事案が発生する中、食品安全委員会として、これまで以上に緊急性を踏まえた効率的かつ信頼性の高いリスク評価を実施していくため、以下の論点についてどう考えるか。

### 1 リスク評価の迅速化

- （１）企業申請品目について標準処理期間を１年間とする運用を平成２２年から開始している。リスク評価の迅速化を図る観点から、案件ごとの優先度やリスク評価の困難度（評価に必要な資料があるかどうかという観点からの困難度を含む）が異なることなどを踏まえ、リスク評価案件の評価に係る期間に目標値を設定することについてどう考えるか。
- （２）適切なリスク評価をこれまで以上に迅速に行うためには、評価を要請するリスク管理機関から迅速かつ的確に評価に必要な資料が提出されることが不可欠であるが、リスク管理機関との連携・協力をどう考えるか。仮に、リスク評価の要請に当たり、リスク管理機関から評価に必要な資料が提出されなかった場合の取扱いをどう考えるか。

- (3) 過去に行ったリスク評価結果等からリスクの程度が明らかである案件や定型的で専門性の高くない案件又は食品安全委員会に専門参考人を招聘することで十分なリスク評価が可能な案件については、専門調査会で調査審議せず、食品安全委員会で直接審議することについてどう考えるか。

## 2 迅速化を支える専門性の強化

- (1) 企画系3専門調査会、評価系11専門調査会が設置されているが、開催回数や頻度などから、専門調査会の統合・改編をどう考えるか。
- (2) 現在、専門委員は延べ252名（実数217名）となっているが、調査審議すべき事項の質的・量的状況を踏まえ、案件の調査審議を適切かつ迅速に行うため、専門委員の適正な人数をどう考えるか。
- (3) 必要に応じて、専門委員以外の専門家から意見を機動的に聴取することについて、どう考えるか。
- (4) 専門調査会、ワーキンググループ等での調査審議においては、事前に専門委員等が在宅等で関連文献及び評価書案のたたき台のチェックなどの準備・検討等を行っている現状を踏まえ、調査審議の促進のための方策をどう考えるか。

(5) 専門委員等の機動的な審議参加を実現するため、ITを活用して遠隔地からでも専門調査会等にリアルタイムで参加できる機動的な審議形態の導入についてどう考えるか。

(6) リスク評価の質を落とさずに迅速化を図ることの困難性に鑑み、専門調査会を支える事務局（職員、技術参与）の専門性の強化、省力化・効率化のための方策について、どう考えるか。

### 3 その他

その他、食品安全委員会の体制や運営等について見直すべき点はないか。